

## 〔活動報告〕

## 平成10年「家族看護ワークショップ」開催報告

東京大学大学院医学系研究科医学部家族看護学分野教室, 家族看護研究会

三橋 邦江 杉下 知子

## はじめに

カナダカルガリー大学家族看護学ユニットのL. M. ライト博士らが開発した「カルガリー家族看護モデル」は、家族を一つのシステムとしてとらえ、家族それ自体を治療・介入の対象とする“家族システム看護”と呼ばれるものである。その理論と実践の取り組みを、日本の家族看護に携わる専門職の方々と共に学び、共有し合う場として、「家族看護ワークショップ」を企画するに至った。1996年11月東京・大阪にて、L. M. ライト博士とファビー・ドゥアメル博士を迎えて、第1回目の「家族看護モデルワークショップ」を開催したところ、大変ご好評をいただいた。そこで今回は、カルガリー大学家族看護学ユニット準教授J. M. ベル博士を迎え、基礎と実践への導入として〈初級コース〉と、前回のワークショップ参加者およびカルガリー大学家族看護学ユニットエクスターンシップ参加経験者を対象とした〈中級コース〉を開催することになった。

## 講師紹介

ジャニス M. ベル博士 (Janice M. Bell, RN, Ph. D.)  
カルガリー大学看護学部準教授。家族看護学ユニットのリサーチコーディネーター。  
"Journal of Family Nursing"の編集者。Wright L. M., Watson W. L., Bell J. M.: Beliefs: The Heart of Healing in Families and Illness, Basic Books, 1996. の共著者である。

研究および臨床の関心事は、ガンを体験している

家族、家族と疾患の研究、家族システム看護スキルの教育と習得。

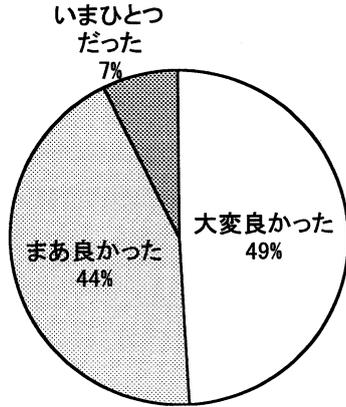
家族看護ワークショップ〈初級コース〉  
カルガリー家族看護モデルを例として  
—基礎と実践への導入—

この初級コースには、9月14日札幌会場に34名、9月15日仙台会場に49名の参加があった。表1に示したのが、ワークショップ〈初級コース〉のプログラムである。J. M. ベル博士には、カルガリー家族看護アセスメントモデルとカルガリー家族介入モデル<sup>1)2)</sup>の理論の概説と、家族への介入方法についてビデオで実践事例を見ながら解説をしていただいた。カルガリー家族看護モデルの全容を理解するには短すぎ

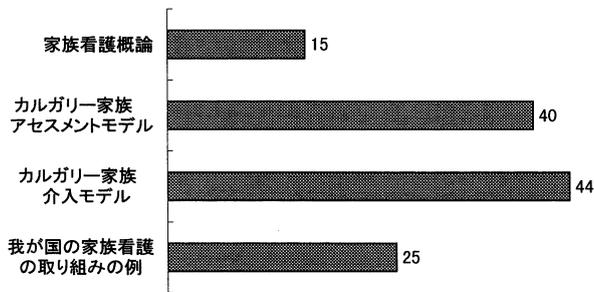
表1. コースの概要

[期日・会場]	
平成10年9月14日(月)	札幌会場：かでの2・7
平成10年9月15日(火)	仙台会場：仙台国際センター
[プログラム]	
10:00	家族看護概論 ・家族看護の定義と内容 ・歴史的発展、動向 杉下知子
10:40	カルガリー家族アセスメントモデル ・構造と理論的背景 J.M. ベル博士 (通訳：春日常)
13:30	我が国での家族看護の取り組みの例 ・9月14日札幌会場 東京大学医学部 杉下知子 ・9月15日仙台会場 岩手県立大学看護学部 兼松百合子
14:45	カルガリー家族介入モデル ・構造と理論的背景 ・ビデオによる実践事例の紹介 ・家族看護の教育 J.M. ベル博士 (通訳：春日常)
15:45	討論

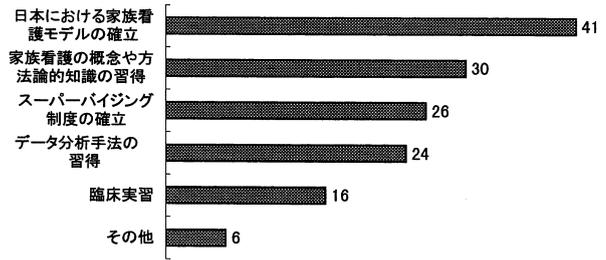
1. 本日のワークショップはいかがでしたか？



2. 本日の内容で特に興味をもった項目は？(複数回答)



3. 家族看護モデルを実践していく上で最重要課題と思われるものは？(複数回答)



4. このモデルが日本で取り入れられる可能性のある場所は？(複数回答)

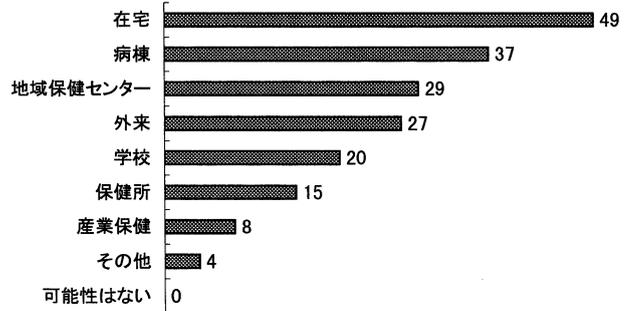


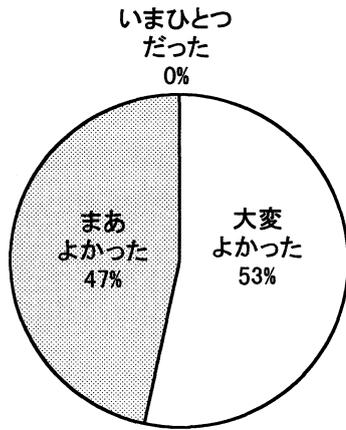
図1. 初級コース参加者アンケート結果 (有効回答数 54)

る時間ではあったが、その理論と実践の一端に触れることができ、導入としては充実した内容であったように思う。また、我が国での家族看護の取り組みの例として、9月14日札幌会場では杉下知子(東京大学医学部)、9月15日仙台会場では兼松百合子氏(岩手県立大学看護学部)にご講演いただいた。杉下は、日本の家族の特徴を要約し、家族システム看護の事例として、在宅で高齢者を介護している家族を紹介した。兼松氏には、小児看護における家族の考え方と小児糖尿病外来における指導の事例についてご紹介いただいた。最後に、J.M. ベル博士と参加者との質疑討論が行われた。一例を挙げると、Q.「カナダでは、多くの大学や病院に、カルガリー大学のような家族看護学ユニットが存在するのですか。」A.「ほとんどありません。カルガリー大学の他に1カ所あるだけです。」Q.「介入したことの評価はどのように行うのですか。」A.「一回の面接でも役立ちます。『あなた達にとって役立ちましたか。』と家族に尋ね

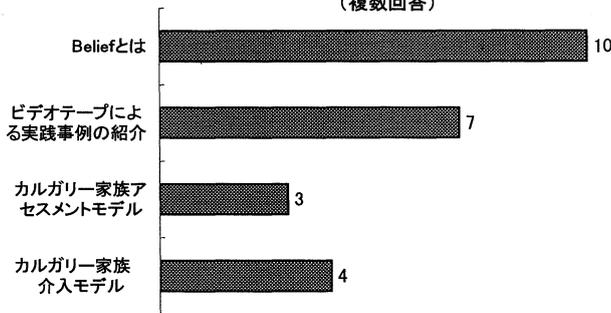
ます。」他、両会場とも活発な討議であった。J.M. ベル博士も、ワークショップ参加者の熱心な態度、的確な質問に、日本の看護職の質の高さを感じ、また家族看護に関心をもつ人達の多さが印象に残ったそうである。

初級コース(札幌会場、仙台会場)参加者に、ワークショップ終了後、アンケートを依頼した結果が、図1である。アンケートの質問内容は、ワークショップの感想、特に興味を持った内容、家族看護モデルを実践していく上で最重要課題と思われること、このモデルが日本で取り入れられる可能性があるか、また可能性があるとしたらどのような場所か、その他、自由記載でご意見をいただいた。ご意見・ご感想の一部をご紹介しますと、「家族看護モデルとその活用について概略を知ることができた。」「実践にもとづいた具体的内容であったため、よく理解できた」と基本的な部分を良く学べた一方、「時間が不足。もう少し聞きたい部分がありました。」「実践的ではあったが、

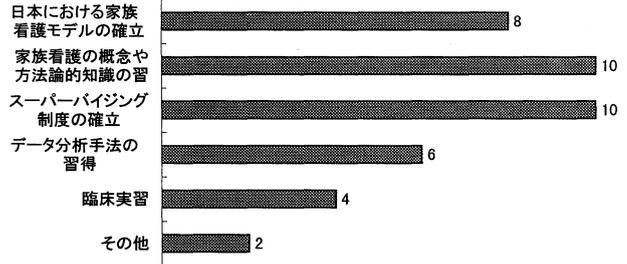
1. 本日のワークショップはいかがでしたか。



2. 本日の内容で特に興味をもった項目は？ (複数回答)



3. 家族看護モデルを実践していく上で最重要課題と思われるものは？ (複数回答)



4. このモデルが日本で取り入れられる可能性のある場所は？ (複数回答)

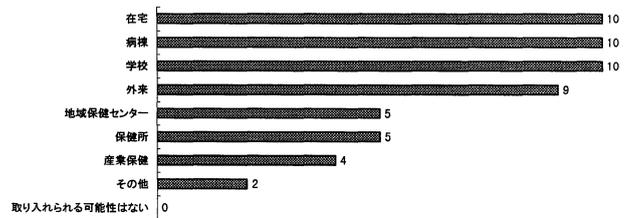


図2. 中級コース参加者アンケート結果 (有効回答数 15)

もうすこし理論的背景について説明して欲しかった。」等、理論と実践の全容を学ぶには時間的制約が大きかったようである。「今後臨床で応用できるように学びを深めてみたいと思った。」、「今後の関心が高まった」という方々には、更にステップアップをめざしていただけることと思う。なお、家族看護モデルについては成書<sup>12)</sup>をご参照いただきたい。

家族看護ワークショップ〈中級コース〉

—カルガリー家族介入モデルを例として—

9月12日(土)に行われた中級コースには、81名の参加があり、表2のようなプログラムが進められた。これまでに、家族看護モデルワークショップやエクスターンシップに参加経験のある方を対象としており、J.M.ベル博士には、より実践的な介入の方法を、とお願いした。カルガリー家族看護アセスメントモデル、カルガリー家族介入モデルと Belief<sup>9)</sup>につ

表2. コースの概要

[期日・会場]	
平成10年9月12日(土) 9:30~11:30	
北里大学	
[講師]	カルガリー大学家族看護学ユニット 準教授 J.M.ベル博士
[通訳]	金沢大学医学部 牧本清子
[プログラム]	
9:30~10:15	カルガリー家族アセスメントモデル カルガリー家族介入モデル Beliefとは
10:15~11:00	ビデオによる実践事例の紹介
11:00~11:30	討議, 質問

いて確認し、実践的手法のポイントを中心に講演いただいた。また、ビデオによる事例紹介の時間を多く取り、家族と介入担当者の会話の各フレーズ毎に、理論に基づく実践手法について解説を加えていただいた。ワークショップ終了後のアンケートでは、「円環的質問や Belief について具体的にわかってよかった。」、「看護婦としての質問のポイントが明確化できた。」、「实际的で、即、臨床や研究に役立つ。」とのご感想をお寄せいただいた。「エクスターンシップで

も理解できていなかった“促進される Belief”が的確であった。],「エクスターンシップに参加したので、ベル先生のお話がよくわかった。],「ポイントをしぼったワークショップで理解しやすかった」のように、参加者がこのモデルの理論をよく理解しているからこそ、実践への応用について深められたように思う。図2に示したように、「4. このモデルが日本で取り入れられる可能性はあると思われますか。あるとすれば、それはどんな場所でしょうか。」というアンケートの質問に対して、15名の回答者全員が「あると思う」と回答している。「どこでも患者さんと家族のいるところならばOK」、「日本の家族論をふまえていけば、どんな場面でも可能」という意見もあった。このワークショップで得られた学びを、今後、各方面での活動に生かしていただけることと確信をもった。

## おわりに

多くの方々にご参加いただき、共に貴重な学びが得られたことは望外の喜びであった。これも参加者の皆様のご協力のおかげと感謝申し上げたい。これを機会に、さらに家族看護を深めていっていただければ幸いである。J.M. ベル博士をはじめ、初級コースでご講演いただいた兼松百合子先生、中級コースでは通訳をお引き受け下さった牧本清子先生、ワークショップ全般の運営を担当した春日 常氏、北里大学会場でご尽力いただいた森 秀子先生と大学院生の皆さんに感謝したい。

## 文 献

- 1) Wright. L.M., Leahey. M.: Nurses and Families. A Guide to Family Assessment and Intervention (2nd ed.), F. A. Davis, 1994.
- 2) 森山美知子: 家族看護モデルアセスメントと援助の手引き, 医学書院, 1995.
- 3) Wright. L.M., Watson. W.L. and Bell J. M.: Beliefs: The heart of healing in families and illness, Basic Books, 1996.